

平成30年度第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録(概要版)

1 日時 平成31年2月14日(木) 午前10時～午前11時45分

2 場所 青梅市役所 203会議室

3 出席委員

森田委員、加藤委員、小澤委員、田谷委員、徳武委員

4 議事

協議事項

(1) 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略における主要事業の進ちょく状況について

(2) その他

(配布資料)

・青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会委員名簿

・資料1～5 主な総合戦略事業の状況

・平成30年度第1回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会会議録概要版

発言者	会議のてん末・概要
会長	<p>(開会)</p> <p>平成30年度の第2回目の懇談会を開催させていただく。</p> <p>時節柄、インフルエンザが流行しており、市内の学校では学級閉鎖があちこちで発生している。職場でも7～8割がマスク着用。インフルエンザに罹患し、医師の指示で出勤停止の者が、1日平均10人ほどいる。皆様もお気をつけいただきたい。</p> <p>さて、今日の資料にもありますが、東京オリンピック・パラリンピック2020大会の開幕まで530日を切り、チケットの料金が先日発表された。日に日にオリパラのムードが高まってきた。</p> <p>チケットで1番高いのは、やはり開会式で、A席が30万円、一番安いE席でも、1万2千円とのこと。競技場の外で行うマラソンなどは、沿道で見ればいいが、会場の中は、やはり高価である。しかし、競争率は、かなり高くなるだろう。</p> <p>また、オリンピック競技の正式種目でもある、テニスは、日本人がオリンピックで初めてメダルを取った競技で、日本が2回目に出場した1920年のアントワープ、ベルギーの大会で銀メダルを取ったとのこと。今、テニスといえば、大坂なおみ選手である。グランドスラムを全米オープン、全豪オープンと2大会連続で優勝した。全豪の決勝は、時間帯もちょうどよく、テレビで夢中で観戦した。精神的にも落ち着き、感情をコントロールできるようになったのが良かったのかなと思う。水泳の池江選手の報道が出ているが、若くて素晴らしい選手が、白血病ということで、残念だ。病気を克服して、大阪選手とともに、2020大会では大活躍してほしい。金メダルを取ってほしいと思っている。</p> <p>それでは、次第に従い進めさせていただく。</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略における主要事業の進捗状況について</p>
会長	<p>本日の進め方については、この後、資料をもとに基本目標に沿う形で事務局から説明をしていただく。</p> <p>市の事業は、この時期になると、事業がどのように展開されてきているか、それにより新年度はどのように展開していこうか、そのためにはどのようなことに予算を投じていくかなど、事業の動きが見えてくる。</p> <p>委員には、予算の細かな内容はともかくとして、現在の市の取組状況について</p>

	<p>て、意見や質問、感想でも構わない。また、日頃、見聞きしたこと、他の好事例などどんなことでもよいので、発言いただきたい。</p> <p>より良い事業が推進できるよう、様々な角度から意見をいただきたい。</p> <p>基本目標1から説明をお願いしたい。</p> <p>(基本目標1について資料1～3を用いて説明)</p>
事務局	
会長	基本目標1について事務局から説明があった。資料1～3について発言をお願いしたい。
委員	<p>質問させていただく。</p> <p>①子育て支援事業の去年の1月にオープンした子育て世代包括支援センターの設置場所はどこか。支援を行うのに面接を行うと思うが、面接の方法は訪問なのか、センターに来てもらうのか。1か所のセンターに来てもらわなければいけないのか。</p>
健康福祉部長	場所については、健康センターの1階に設置している。専門の相談室も設けてあり、センターに来られない場合には、担当の保健師・助産師等が自宅を訪問し、全ての方と面接するよう努めている。
委員	子育て関係の事業は、全体的に問題ないと思われる。子育て世代包括支援センターやスマホなどを利用した子育てアプリなど、とても素晴らしいと思う。子どもを産む前と、産んだ後も、全て網羅していると思う。以前も話があったと思うが、病児保育のことについて、実施しているとは思いますが、そういうのも触れていただいた方が良いと思う。
企画政策課長	本日は、担当部長が他の公務のため欠席だが、病児保育については、その必要性、希望する声があるということもあり、市内の保育園関係者や医師会の方に相談しながら、進めていきたいということで、対応を図ろうと調整を進めているところである。
委員	本日の資料にはないが、そういう取組も進めていくということでよいか。
企画政策課長	お見込みのとおり。
委員	昔がいいというつもりもないが、昔と比べると、昔は、家族構成が、一家という組織の中に、じいさんばあさんがいて、いろいろ面倒見たり、余計なちょっかいだし

	<p>たりして、そのフォローというか、むしろマイナスな部分もあったかもしれないが、それによって、妊婦の精神的な部分や誰に相談したらいいのかなど、家全体で妊婦をフォローして子育てしていたというようなことだったが、現在は、そういう状況が非常に少なくなっていると思うので、妊婦が孤独にならないようなことを、どのように、やっていったらいいのかということが、資料に書かれている事業に表れているのかと思います。うちは、長女が、今年の4月の終わりごろ出産予定ですが、旦那は北京にいて、北京にいるけど呼びつけられて、娘は青梅の実家にいるので、一緒に旦那が健康センターに連れて行かれて、文句言っていました、これはとてもいいことだと思う。いかに、妊娠中に、または子育て中に色々な人をそこに巻き込んで、みんなでフォローする、あるいは子育てすることができたなら、とてもいい形で、子どもが、育っていくと思う。私は娘を間近に見ていて、話も聞いたりするので、青梅の取組に不満も改めてお願いすることもない。そういう視点を持って色々考えてくれると、他にもいろいろできることが生まれてくると思う。少なくとも妊婦の夫を入れていくというのはとてもいいと思う。文句を言っていた娘の夫も北京から日本に来て、一緒に病院に行つて機嫌の良さそうなことといたらないので、そういった喜んでくれる人を周りに配置することが、妊婦にとっては、一番精神的にいいのかなど。望まれて生まれる状況をいかに作るかが重要だと思った。</p>
委員	<p>子育てをしやすいまちを創るというのは、非常に重要なことだと思う。そういう意味では、資料の説明を事務局から受けたが、非常にいい方向で動いているのだろうと思う。一方で、この子育て世代包括支援センターに一度は利用してもらうのだろうと思うので、どれだけ多くの人に周知していくのかが、一番大事なことだと思う。延べ利用者数も 2,000 人強ということで、順調に利用されていることと思う。利用者の声を拾って、こういう悩みを相談したら、こういう解決につながったとか。先ほど委員から話があったが、夫を巻き込んで、夫と一緒に利用したら、こういうストレスが解消したとか、そういう利用者の声を反映しながら、もっともっと住みやすい、子育てしやすい、まちづくりに活かしてもらいたいと思う。</p>
会長	<p>委員の皆様からは、おおむね評価されるような意見を頂いた。私もそう思っている。もちろん行政によって対応は違うと思う。この数年で、いろいろ対応が進んだと思う。先ほど、委員も言っていたが、子育て世代にはやはりスマホで情報を発信したり、あるいは情報を見ることができたり、ということでないと無理だろうと思う。この「ゆめうめちゃん」もいいし、今後もいろいろなことに使えるアプリを作っていくのもいいと思う。非常にいいと思う。行政は情報持っているから、多くの人にこういうことができるんだということを知ってもらうには、市からダイレクトにできるかは別として、情報を出してあげればよい。当然、市は、対象者も分かっているわけだから、そこにこういうことをやっていますよと、されてはいると思うが、もっとやっていければいいと思う。委員の話にもあったが、うちの息子の嫁が 6 月に、娘が 10 月</p>

	<p>出産予定で、今大変なのですが、やはりいろいろ心配みたくて、娘は、母親によく電話があるし、行政にもいろいろ相談しているようで、委員の話にもあったが、周りに世話をできる人がいればいいが、夫婦だけの家庭もあるだろうし、仕事の関係で、夫が家にいない時などもあったりと、色々な状況があると思う。そういうときに行政がフォローしてあげるといふか、周りに相談する人がいないことで心細くならないように行政が寄り添ってあげると、妊婦も心強いかたと実感している。</p> <p>その他の保育関係や、学力向上などに意見を頂きたい。</p>
委員	<p>資料 3 の左側の保育園の待機児童の推移が載っているが、説明書きには、定員割れしているところもある。とはいいいながらも、東部地区には、待機児童が集中していると思う。今少子化が進んでいる中で、平成 27 年から 31 年までの推移をみると、なかなか改善されていないように見受けられるが、そのあたりの状況というのは、今の見方でよろしいか。それとも、このあたりの対策を定員割れしているところと、オーバーしているところで、良い施策はないのかと思うがいかがか。</p>
子ども家庭支援課長	<p>委員の言われたように、東部地区は待機児童がおり、西部北部地区は、定員割れをしている状況です。その解消ということで、資料にも記載してありますが、平成 32 年 4 月に東部地区で 2 園拡充を図る。待機児童の解消に向けて、進めているところである。</p>
企画部長	<p>一点補足する。今説明があった保育施設についての対応を図るとともに、以前まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策の一つに、いわゆる地域偏在を解消するための施策案として、保育所のバスステーションの事業も計画に掲げて、行政と保育所関係者等と一緒に検討した。例えば、西部の定員に余裕のある保育所に児童を連れて行くという検討を時間をかけて行ったが、人数的にうまくいかないということで、バスステーションについては、断念した経緯がある。それに代わって、東部と西部の地域偏在もあるので、新年度から、保育関係者、行政が集まって、定員割れ対策という中でも、少し広く子育て支援全体を検討できるような会議をもって、東部は今井インターチェンジの開発などもあるので、そういう情報なども共有しながら、子育て支援について考える会議を準備している。</p>
委員	<p>子どもの保護ということで、目黒区の女儿の問題や千葉県野田市の問題等もあるが、なかなか行政が家庭内に介入するのは難しいことである。直接はつながらないかもしれないが、放課後子ども教室や学童保育や保育所などで情報を共有して、そういった虐待を防ぐ横のつながりの連携は構築していると思う。青梅市を管轄する児童相談所は、確か立川児童相談所だったと思うが、ちょっと距離があり、青梅市内にあるわけではないので、そういう連携を強化してもらいたい。どこまで介入するかという難しい問題がある。だがそういったところで、配慮いただけ</p>

<p>子ども家庭支援課長</p>	<p>ばいと思う。</p> <p>私の方が、まさにその担当をしている。目黒の事件や千葉の事件をうけて、国も東京都もどのように対策するかということを検討しているが、東京都については、平成17年に子ども家庭支援センターという制度を作り対応してきた。遅ればせながら国がその制度を全国に広げようと動き出した矢先に事件が発生してしまい、さらなる手法を研究しなければならないという状況であります。今、委員から横の連携をという話があったが、児童福祉法の中に要保護児童対策協議会というものがあり、当市も組織している。まさに、今日の午後その代表者会議があり、病院、警察、保育所、学校などの関係機関が集まり、情報共有する。その下に実務者会議がある。年4回情報共有等をしている。そのまたさらに下に、個別ケース検討会議があり、ここで、個々のケースについて情報をしっかり共有する会議となっている。最近の事件で、やはり情報が共有されていなかったことが非常に問題視されている。市としても、その点について、しっかり対策していくことにしている。</p>
<p>会長</p>	<p>先ほど委員指摘の市内で東部地区、西部地区の人口が偏在していてむしろ西部地区の方は、子どもたちにとっては保育所または学童保育所に入りやすいわけで、定員に満たない状況があってもやむを得ない状況もある。東部地区で保育所の数が足りないというか、入れない状況というのは、教育や保育の関係者と行政で検討していると思うが場所にしろ予算にしろ人口を増加させるためにできるだけたくさん子どもを生んでほしい願いがあるわけだが、それが追いつく時期が来るのか。その辺が追いかけてこで、充足されないという感じがするが。このあたりはどうか。難しいとは思いますが。</p>
<p>企画部長</p>	<p>まち・ひと・しごとの根底にある青梅市の人口動向の特性を踏まえた対策として、まず基本的な考え方として、子育て世代の流出が顕著だということを踏まえて、3つの基本目標を掲げる1つ目に「子どもを生み・育て、将来にわたり暮らし続けたいまちを実現」ということで、資料にある各施策を展開しているところである。なかなか全国規模の人口減少が止まらない中で、いかに子育て世代の多くの方に、いかに定住してもらえるかまたは流出を抑制できるかを目指し、子育てしやすい施策を展開しているところだが、それ以外の部分、地域資源を活かすような取組や、この後の資料に出てきますが、観光戦略やそういうところをアピールポイントとして、なんとか人口流出を食い止めるという、総合的な視点で、戦略的に見て地道に行くしかないのかと思う。そういうところで、この3つの基本目標の実現に向け総合的に進めているところである。特効薬はないが、こういうところの一つ一つの積み上げでと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>ぜひ前向きに進めていただきたい。</p>

会長	それでは基本目標2について事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(基本目標2について資料4を用いて説明)
会長	基本目標2について事務局から説明があった。それでは、資料4についてご発言をお願いしたい。
委員	<p>実際、今、事務局から説明のあったとおりで、関係者は進展していると思っている。色々な意味で、数字的には上がってきている。これが市民の皆さんや市民以外で青梅に興味をもって生活の場を移そうとか、事業の場を求めている人たちにお伝えするのが十分でないことは感じていて、それをどうするかということが課題だと思う。うまく伝えることで進展状況はさらにスピードアップすると思うが、なかなかうまく伝えていくことが難しいというのが実際感じているところである。</p> <p>「そんなことやっているんだ？」と言われて、「やっているんだよ。」というようなケースが多い。</p>
委員	<p>観光の方で、海外への魅力発信のため、新たにホームページを作られたり、チラシ、ポスターなどを作られているということであり、アプリなども開発しているのかもしれないが、何か国語でやっているのか。結構そういうアプリの開発などは、進んでいて、海外に行っても、例えば歴史的な遺跡に行っても、自分の求める言語で解説が出てくるなど、便利なものが出てきている。そういうアプリの開発は、お金もかかることであるが、せめてホームページなどは、英語と中国語、韓国語などがあるといいと思う。</p>
経済スポーツ部長	<p>資料にありますOmeBlueのパンフレットに関しては、英語と、オリパラのホストタウンの関係もあり、ドイツに向けての発信もある中でドイツ語のものを作っている。観光協会のホームページについては、外国の方にも、わかりやすい情報を伝えられるように、リニューアルを進めているところである。情報発信については、ジャパントラベルのホームページなどに掲載させていただいて、外国の方が、直接見られるような形で発信している。</p>
企画部長	<p>市の公式ホームページについては、観光情報の発信も含めて、ホストタウンの関係もあり、ドイツ語も含めて6か国語で発信している。</p>
委員	<p>実は、年末、少し青梅をドライブして、御岳山で泊まってきたが、もう少し、実際の表示で、多言語があるといいかなと思った。</p>
委員	<p>資料の事業目的に「青梅駅周辺地域のにぎわいを取り戻すことにより人や物の</p>

	<p>流れの波及的な広がりが期待できます。」と始まっているが、東青梅の方から青梅駅の方へ行くと、あの街並みが少し異なる雰囲気、やはり観光に使えるのではないかと思う。昔はそれでにぎわっていたと思う。今、青梅市民会館を壊して、新しい建物、文化交流センターを作っているが、新しい近代的な建物に移行するのがいいのか、それとも古き良き町並みを保存しながら観光に役立てるのか、私は、後者の方で、外部の観光客を取り入れるのが良いと思うが、いかがか。</p>
会長	<p>建築には制限があった気もするが。</p>
企画部長	<p>いわゆる青梅宿を中心とするエリアについては古く江戸時代、明治、大正、昭和の時代の、いわゆる歴史的建造物も多く現存している。そういう中でいわゆる歴史的建造物としての指定を受けて修繕などを行う際に国等の支援を受けながら、町並みを整えていく中では、一定の制限がある。そういう枠組みの中で、委員の発言にあった古き時代と、現代のまちをとらえたまちづくりを、この地域に関しては、良き町並みを保護しながら、制限はあるが重点的に整えていく考えである。今後もこの中心市街地活性化の基本計画にもとづいて、進めていきたいと考えている。</p>
会長	<p>川越とよく比較されるが、青梅宿の一带というのは一つだけ斬新なデザインの建物ができて、違和感があるので、どこまで制約がかけられるかわからないが、全体として、調和がとれている。そのイメージで売っているわけだから、若者は少なくなっただが、そういう風にした方が良くもしい。</p>
委員	<p>まちを活性化する事業は色々あるが、今、定住人口を増やして行こうというものについては、これまでの話からすると、子育て世代の人たちをターゲットにしていくなかなと想像する。経済活力向上の取組としても、空き店舗を創業の人たちに積極的に貸していこうということで、青梅市として支援できる得意分野があると思うが、こういう創業をする人たちを想定していて、そういう人たちが来てくれるといいという希望する創業分野が何かあるか。特に経済的活力向上の部分で、少しずつ良い方向へ向かっているようだが、市の方で想定している、こういう創業を得意分野としているので、こういう分野の人にもっと来てもらいたいというようなものがあるのか。狙い撃ちをしたい業種があれば、そういう人たちに向けたPRを行っていった方がいいと思う。その方が、青梅市としての存在も高まっていくと思うし、少しずつ軌道に乗っていったという話もあったので、さらなる増というの見込めるのかと思う。</p>
経済スポーツ部	<p>創業支援センターを東青梅の駅前に作り、青梅信用金庫、商工会議所、青梅</p>

長	市の三者で協定を締結し、青梅での創業を支援していこうということで、立上げた。創業したいという相談から始まり、色々なセミナーであったり、すでに創業している方との意見交換ができるような場を作ったり、さらに創業した後の色々な相談にも乗っていくような一連のサイクルを作って、今、そちらを中心として、創業に対する支援を行っている。委員の話にあるように青梅市として、例えばこういう業種の方に強く来ていただきたいところまでは至っていない。創業を考えている方で主に多いのは、現実には、女性で子育てが一段落した方で、現実的に多いのは、美容系で、ネイルであったりヨガであったりが今は多い状況である。その中でも、青梅のまちなかで最近できたところでは、家具の製造販売や、地ビールの店だったり、人を呼べるような、不特定多数の人が入れる店があつてにぎわいが取り戻せるといいと考えている。そこまで誘導できていないというのが現状である。
委員	篠原ともえさんのデザインのゆめうめちゃんのデザインもキャラも私は気に入っているが、もう少しこれをPRしていくといいのでは。よく、ゆるキャラブームということで、青梅としても他のものもあると思うが、このキャラを等身大のものとして、売り出していくというか、担ぎ出すと、非常に目立つし、なかなかいい戦略になるのかと思っている。そのような計画を立てたらいかがか。くまモンなど、あれひとつで、全国的にも売れたと思う。相乗効果もあり、ゆめうめちゃんのキャラはとていいと思う。今後の活用を考えたらいかがか。
会長	その構想はあるのか。
企画部長	ゆめうめちゃんの活用については、色々工夫を図っているところであり、今年度は、そのキャラクターを活用して LINE スタンプを現在販売しているところである。ぜひご利用いただきたい。新年度はゆめうめちゃんの着ぐるみを作成して、各イベントを中心にPR していくよう考えている。様々な場面場面で、ゆめうめちゃんを活用していきたいと考えている。
委員	今週青梅マラソンがあるが、市外や海外からも多くの方が参加されるので、ちょっとしたキーホルダーなどを参加賞として差し上げると、どこかで見つけて、「これなんですか。」というような形で、拡散していくのではないかと思う。今年は無理でも次年度以降経費のかからない景品で、できたらいいのではないか。
企画部長	ゆめうめちゃんデザインのボールペンやクリアファイル、バッジは随時作成して、梅の里再生などで活用しているところである。マラソンの部分でも、御提言は十分に受け止めて、それ以外の各場面でもPRしていくよう考えていく。
会長	相当多くの人が出るので、チャンスである。

委員	青梅マラソン大会オリジナルの青梅せんべいのこのキャラも別にあるのか。このキャラも可愛い、元気が出そうなキャラだと思う。
会長	この青梅せんべいは、会場で売っているのか。
経済スポーツ部長	はい。
会長	<p>発信ということからいくと、SNSもそうだが、テレビの効果も大きい。先日「充電させてもらえませんか？」で小池都知事が青梅に来て、櫛かんざし美術館等に寄った。青梅奥多摩の観光スポットの映像をテレビで流すだけでも、効果は大きい。そのあと観光客が増える。テレビ局の関係もあるから難しいのかもしれないが、利用できるよ。</p> <p>高尾山も一時テレビで映像が出てそれから急に人気になった。御岳山も地元の自慢の立派な山だから、テレビを活用すればよいのではないかな。外国人も多くなったのでは。</p>
委員	多いですね。私が御岳山に泊まったときは、私たちのほかは、全員外国人だった。特殊な食事にも対応していた。
会長	そういう意味でも、委員の話にあったように、いろいろな国の人があるので、多言語の案内板等を用意する必要がある。
委員	ケーブルに乗るまでの道案内用の看板など、いくつか工夫が必要だと思う。私が宿坊に泊まったときも女性が1人でふらっと来ていて気軽に泊まれる雰囲気がある。やはり、山に登る方には、聖地的な雰囲気がある。皆さん朝早くから登っている。そういう紹介があるといいと思う。また、外国人の方にもわかるように、多言語の注意書きが必要だと思う。たとえば、「ごみを捨てないで」など、みんな日本語で書いてあるので、多言語化が必要。
会長	それでは基本目標3について事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(基本目標3について資料5を用いて説明)
会長	基本目標3について事務局から説明があった。それでは、資料5についてご発言をお願いしたい。
会長	イベントはとても良い。市民が集まって盛り上がるというのは。

委員	青梅市民は好きみたいだ。
会長	お祭りも好きだと思う。 説明のあった自治会館の活用はとても良い。何かしないと目が向かないから。モデル事業との話だがよい取組だと思う。
委員	自治会館を使ってこういう事業をするということだが、青梅市全体として進めていくのか。地域の温度差があまり、うまくいかないと思う。地域の自治会の役員が主体となって行うのか、ある程度市全体に波及していくとすれば、市のバックアップも必要だと思うが、そのあたりの進捗状況や見えてきたことを聞きたい。
市民安全部長	この事業は、市民提案協働事業で、市の抱えている様々な課題を行政と市民や団体等との協働の手法を活用して解決していこうとするものである。市としては、補助金を出したり、対応窓口を設置したりして、事業を進めていくものである。多世代交流センター事業で使用した自治会館は提案した団体がすでに活用して事業を行っていた経緯があり、今回は、それを協働事業として行ったものである。自治会館は市内に 129 か所あり、非常に地域の方の生活に密着した場所に設置されている。市としては、重要な地域資産として捉えているが、自治会館は、市の施設ではなく、自治会の所有のものなので、利用実態や利用料金等もよく検討した上で、この貴重な地域資源を活用できたらと考えている。
委員	自治会館の活用はとても良いことだと思う。自治会費を払ってくれないと自治会は成り立っていかないので、払ってもらって維持をしていく。また、自治会で何が大事かという、やはり防災だと思う。災害時には、地域で支え合い、自助と共助で、対応しなければならないので、こういう活動をきっかけに、自治会加入者を増やしていったら定着すると思う。先ほど委員の話にあったように、地域によって温度差があってもいけないので、広域に事業を展開していけたらいいと思う。
会長	事業の実施主体は自治会か。
市民安全部長	今回のこの事業の主体はNPO団体である。
会長	今回はモデル事業という意味もあって実施したということだが、方法はアレンジするとしても、何か、自治会館を活用して、地域の方が交流するというのは大事だと思う。他にオリパラとかはいかがか。
委員	カヌーのキャンプ誘致というのは、確度としては高いのか。本気で誘致するのであれば、積極的にやらなければならないと思う。候補地も多くある中で、積極的に

	<p>行ってもらえれば良いと思う。誘致についてはそろそろ確定しないといけない時期に来ているのではないか。</p>
<p>経済スポーツ部長</p>	<p>カヌーそのものの競技は、オリンピックについて言えば、競技場については人工的に作られたコースで、今年の夏に完成予定で、今の予定では秋以降に、公開練習を行えるというような情報は入っている。青梅の場合は、御岳溪谷が自然のコースで、ドイツに関しては、姉妹都市であるボツパルトを通して交渉しており、アメリカや他の国からも話が来ている。具体的に、宿泊の問題があるが、オリンピック競技場での練習を行いながら、その期間中、競技場が使えない時に、青梅での練習を行ってもらう形を考えている。大使館とも交渉を進めている。日にちの問題までにはまだ至っていないが、そういう動きは、ドイツも含めて誘致の交渉を進めているところである。資料にも記載があるが、市長もフランスの国際大会に行き、トップセールスを行った。カヌー協会とも連携しながら、具体的に進めているところである。</p>
<p>委員</p>	<p>スポーツは市民を巻き込んで盛り上げられる魅力をもっていると思われるので、そういういい機会をチャンスに変えていく。市民が入ってくるというのがキーポイントだと思う。たくさん広報してもらいながら、盛り上げていくことが、将来に向けてのまちづくりの一步だと考える。期待している。</p>
<p>会長</p>	<p>先ほど説明のあったラグビーのパブリックビューイングも年代を問わず、そういう時にファンになって盛り上がることもとてもいいことだと思う。何かきっかけがないといけない。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどの自治会館の活用なども、そういうことだったらできそうな気がする。いくらでもそういう道というのは広がるのではないか。そこで、お金が儲かればなおいい。きっかけとしては、市民の方々が参加して盛り上がって、「良かったです。」と言ってもらえるような形がいいと思う。業績としては大きいものになると思う。そういう視点を持ってもらえるといいと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>委員が言われたが、行政が難しいのは、KPIとか、点数で計られて、目標に達成してないと怒られてしまうが、本当はそうではなくて、実際行っていることも大事で、資料にもあるように、色々なことを青梅市も行っている。KPIが到達している、していないは別として、結果も出てきている。それを続けていくことによって、青梅市も良くなっている。いい方向に向かっているわけだから、そういうところを大事にしないといけない。目標を達成できないから、この事業はだめだ、終わりにしようなんてしていたら、全然前には進めない気がする。</p> <p>数には現れない成果というものもたくさんある。そこを見ていかないといけない。</p>

	<p>努力しても、すぐに結果が出るものと時間のかかるものがある。長い目で見ないとせっかく良い取組を行っているのにもったいない。</p>
委員	<p>自然もいっぱい青梅にはあるので、活用しないとったいない。</p>
会長	<p>一通り今日の基本目標の1から3について御意見を頂戴したが、全体を通じて言い忘れたことなどあればいかがか。</p>
委員	<p>どこの部分で話したらいいかわからなかったが、青梅市の小学校の家庭科室、図工室、理科室などの特別教室に暖房設備がないところがまだ結構あるということがあるということだが、それが学力低下につながるということもないと思うが、学びの場では、そのような学習環境が整っていないと、健康面なども考えると不十分かなと思う。そういう状況があると聞いたので、どこかの機会で伺いたいと思った。</p>
教育部長	<p>基本的に普通教室には冷暖房が入っている。特別教室については、音楽室は整備済みであるが、その他の特別教室には整備されていないところもあるので、新年度から、順次、特別教室の空調設備の設計を行っていく。</p>
委員	<p>学力向上事業について、私は、以前言ったことがあります、一番上の子が勉強ができると、2番目の子も3番目の子もできるという話がある。子どもが優秀なのかといったら、そうではなくて、それは母親が子どもに勉強をさせるのが上手ということを見た。長男でうまくいったから、下の子も同じようにやって、勉強ができるようになる。つまり、サタデースクール、サタデークラスいずれにしても、子どもに勉強を教えると学力が向上するのは当然そういうことがあるが、それとは別に、母親に勉強をどうやったら、お宅の子どもが勉強ができるようになるという、つまり、ある意味「サタデーマザークラス」などをやるというのではないか。母親もこういう風になれば、全然勉強しないうちの子もするようになるのかと、今まで、「勉強しろ、勉強しろ。」とうるさく言っていたのは、結局マイナスだったんだなということを教えてあげれば、会長の挨拶にもあった、大坂選手ではないが、褒めるとテニスがうまくなるという方式と同様に、母親に教えると、子どもが勉強ができるようになるということをどこかで聞いたので、それを具体的に検討していただければありがたい。</p>
教育部長	<p>御指摘のとおりだと思う。学校側でも、家庭学習が非常に大事だと考えている。教育委員会でも、そういう取組をしており、家庭学習の啓発資料を各家庭に配布して、啓発をしているところである。サタデークラスやステップアップクラスは、前向きに勉強したいと思っている子に対する支援であり、「僕はいいや。私はいいや。」という子どもたちへの支援については、まず、家庭学習に対する支援が重要だと</p>

	<p>考えており、啓発に努めているところである。課題としては、保護者会などの周知の場において、教育に熱心な保護者の方はそういう場に参加していただけるが、それほどでもない保護者の方については、参加率が悪い傾向にあると感じる。そういう部分も含めて、家庭学習の啓発については、推進していかなければならないと考えている。</p>
委員	<p>私が小さいころというか学生のころは、塾に行っている子は頭が良かった。頭が良かった子はもともと良かったのかもしれないが、金銭面の問題もある。青梅市の人口は、毎年 700 人くらいずつ減っている。人口減なのに生活保護が増えている。ケースワーカーがいるが、その数も追いついていかない。学力向上に繋がるかはわからないが、貧困家庭に対する対策も必要ではないか。進めているのであれば、その進ちよく状況や施策を伺いたい。</p>
健康福祉部長	<p>福祉事務所長も兼務させていただいている。生活困窮者の自立支援法の関係で、青梅市でも生活福祉課、生活保護を担当する部署だが、生活困窮に対する係も設置している。生活困窮している家庭の子どもの学力を上げることで、貧困から脱却できると言われている。市では、社会福祉協議会にお願いして、教員経験のある人が手挙げ方式ではあるが、小学校6年生、中学1年生から3年生を対象に学習支援を行っている。まだ、極端な数ではないが、担当する元教員の先生が家庭にもアドバイスをを行っている。この事業を継続して、もう少し対象も増やしていきたいと考えている。</p>
子ども家庭支援課長	<p>子どもの貧困対策は私の課で担当している。健康福祉部長から説明のあった学習支援のほかに、市内には、子ども食堂が、2 か所あり、そちらでも学習支援を行っている。本日、この会議と並行して、子ども・子育て会議が行われており、子ども子育て支援事業計画の検討の中で、子どもの貧困にかかる部分を取り込んで、施策を進められるように行っているところである。</p>
会長	<p>とても重要なことである。貧困が繰り返されてしまうこともあってはいけないと思う。そこから脱却するためにも、今、市で行っていることは必要なことであると思う。</p>
委員	<p>子育て支援事業で、シングルでの出産支援ということが資料にあり、良いことと思う。子どもが望まれて生まれてくるという状況を社会で作ることが非常に大事だと思う。財政が苦しいとは思いますが、行政がサポートしてくれるといいと思う。</p>
委員	<p>人口減少は、やはり経済の縮小で、問題であると思うが、他の市町村では、日本人で人口増加が難しいので外国人の誘致で人口を増やそうと考えている自治</p>

企画部長	<p>体もあるが、インバウンドではなく、就労するという意味での外国人の流入や誘致というのは、市としては対策や考えはあるか。</p> <p>ひとつの雇用の場という面で、青梅市の特徴でもある老人福祉施設が多くあり、人材不足が課題であるといわれている。そういう中で、外国人材を取り入れるというのは、場面として、増えてくると思う。国や都の制度で、雇用、就労の教育がしっかり取られていく中で、市としても、市の特性を踏まえた雇用の場、就労の場の確保については、国あるいは都の動向などを踏まえながら適正な教育のもとに支援できるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>まさしく、そこが一番足りていないところであると考えます。</p>
会長	<p>避けては通れないと思う。</p> <p>本日の協議事項は、終了とさせていただきます。</p> <p>本日発言のあった点については、総合戦略の推進が図られるよう対応をお願いします。</p> <p>最後にその他について何かあればお願いしたい。</p>
事務局	<p>「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間は、来年が期間満了の年である。このため、本総合戦略を改訂することを予定している。改訂に向けて、また協力をお願いしたい。</p> <p>以上で本日の議事はすべて終了した。</p> <p>以上をもって、平成30年度第2回青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会を終了とする。</p>
会長	<p>(閉会)</p>